

校長室だより		令和6年4月24日発行
共学共高	第	
	64	発行責任者
	号	白梅学園高等学校長 武内 彰

1学年オリエンテーション遠足

4月23日(火)1学年のオリエンテーション遠足の引率を行った。朝7時に引率教員は、国立駅南口に集合。私自身は学校へ行くよりも短い時間で到着することができた。駅の改札から集合場所のバスまで誘導の確認をして、それぞれが配置に着く。私は、5号車、つまり1年5組と共にバスに乗車するので、その付近で生徒たちを待った。

予定時刻よりもやや遅れてバスが出発となった。時間差をつけて集合していた3年生たちが手を振って見送ってくれる。優しい生徒たちである。1年生も手を振ってこたえる。国立府中インターチェンジへ着くのに、20分以上要してしまった。後の時程が気がりである。

5組の担任は、S先生。中央高速に入った時点で、予告通りに「学園歌」の練習に入る。合唱コンクールで全校生徒が斉唱したものを録音したCDを使用して練習をする。S先生は「過去の経験からこういうときに先が見えない練習をすると、だんだんと皆さんの気持ちが落ち込むことがあるので、まずは、1回聞き、次に3回斉唱して内容が良ければ、それで終わりにしましょう。」と投げかける。その際に、副担任として同乗したK先生から、学園歌にまつわるエピソードを教えてもらった。1番の歌詞で「われらが道の願いなれ」という一節があるが、これは昔、「乙女の道の願いなれ」という歌詞だったらしい。本校は女子校であるから問題ないのだが、白梅学園大学が共学化したときに変更したようだ。また、作詞者の栗田道子氏は、短大に在籍していた時にこの歌詞を創ったという。これらのエピソードは、S先生から5組の生徒たちにも伝えられた。

さて、生徒たちの様子はどうかというと、歌詞を見ながら、声量はそれほどでもないが、奇麗に歌っている。2回目歌い終わったところで、ある生徒から「先生も歌ってください」との声が上がる。S先生が「歌っています」と答えると、生徒が「もっと大きな声でお願いします」と言うのではないか。伴奏だけだと不安なのかと思い、私も全力で歌った。当然、歌詞はすべて覚えているので見なかったが、なぜか途中で間違えてしまった。恥ずかしい次第である。しかしながら、3回目を歌い終わった後に、生徒たちが自然と自分たちで拍手をしているのが印象的であった。

バスは途中、談合坂でトイレ休憩をとり、目的地である西湖のキャンプ場へ到着した。各クラス各班に分かれて、具材や調理器具、薪などを受け取って、指定された炊事場へと向か

う。私の目の前の班は、薪に火をつけることに苦労していた。一度は勢いよく火が付いたように見えても、続かない。途中で、生徒たちは落ち葉を集めて足し、成功している。なかなかいいアイデアである。お米を研ぐ、野菜を洗うなど役割分担して作業を進めていく。薪に火が十分につくまでは、仰いだりするので、生徒たちも私も煙まみれである。予定よりも時間を要したが、無事に調理が済んで、生徒たちは思い思いの場所でカレーを食していた。感想を聞くと、どの生徒も「美味しいです」と返してくれる。「同じ釜の飯を食う」というが、みんなで協力しながら作り上げたカレーの味は格別であろう。一方、教員チームは副担任が調理を担当してくれることになっている。私も夢中で生徒たちのそばにいたので、学年主任のW先生から声をかけるまで、自分たちの食べるカレーの心配などしてもしなかった。Y先生が特別に隠し味を仕込んでくれた教員チームのカレーの味もまた格別であった。どのクラスへ行っても、談笑しながら美味しそうに食べている。楽しいひと時であった。





午後は、河口湖へとバスで移動し、「トレジャー・ロワイヤル」である。数名の班に分かれて、GPS 機能を使って、謎解きや宝探し、ミッションなどに挑んでいく。得点の高い上位 3 チームには賞状と商品が与えられるのだ。生徒たちは意気揚々とそれぞれの班ごとに河口湖周辺を歩き回る。私は GPS 機能を使う必要のない、「紙面問題」の回答に挑戦した。5 問中最後の 1 問だけはわからなかったが、他は何とか解けた。生徒たちの様子を見るために、徒歩で湖周辺を周っているときに、「校長先生、この問題わかりますか？」と聞かれたときには、回答済みの紙面問題だったので、手助けをしてあげた。河口湖には白鳥も泳いでいて、穏やかな湖面が広がっている。曇り空で風もあるので、肌寒く感じられるが、生徒たちはしっかりと取り組んでいた。すれ違う時には「こんにちは」とあいさつをしてくれる。「がんばってね」とこたえる。

アクティビティのミッションは、なかなか面白い。学年の先生たちが出題者になる。例えば、「ジェスチャーで同じ班員にお題が何か答えてもらう」、「班員同士で言葉を発することなく誕生日順に整列する」、「早口言葉を 3 回連続で詰まることなく言う」、「目をつぶって片足立ちを 10 秒間続ける」、「出題者の先生と班員全員がジャンケンをして過半数が勝つ」といったことを経て、870 点くらい獲得している。生徒たちの笑顔がはじける。

終了時刻にすべての班が再集合して、表彰が行われた。第 1 位の班は 1900 点以上を獲得していた。ポイントの高いミッションに成功したのだろう。周囲から拍手が起きる。無事に終わることができて何よりである。ここで、小雨が落ちてきたが、バスに乗り込み、帰路へと向かった。中央高速では渋滞もなく、予定時刻よりも 10 分ほど遅れて国立駅前の大学通りで解散した。

これからの 3 年間で共に過ごしていく仲間たちとの 1 日、生徒たちはどのような感想をもったのだろうか。入学以来気の合った仲間同士で班分けをしたわけではない。機械的につくられた班のなかで、人間関係をつくって楽しんでいたのである。これからの三年間、お互いに高め合っていく存在であり続けてほしい、と願っている。



(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)